会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（高田自治会①）
2　日時	平成 30 年 8 月 4 日（土）10：00～11：00
3　場所	高田自治会集会所
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、下舞主任 （環境事業センター）関原主査、秋山技能労務主任、加茂主任 （高田自治会①）参加人数：17 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●他の都道府県と比べて神奈川県は家庭ごみ有料化を実施している自治体が少ないのではないか。 →家庭ごみ有料化は、全国自治体の６割が実施している。一方で神奈川県内は、６割に達していない状況である。県内の実施状況については、各自治体の状況の違いや考え方があるので、単純に比較できないところである。 ●不法投棄が心配であるため、家庭ごみ有料化と戸別収集は、同時に実施したほうが良い。今後、どのように進むのか。 →現段階では、別施策として検討中である。戸別収集は、併用施策という位置付けである。戸別収集については、意見が二分しており、平成 30 年度に、是非の意見を取りまとめ、31 年度に方向性を決定する予定である。不法投棄については、現在も対策を行っているが、もし、家庭ごみ有料化が実施された場合は、パトロールの回数を見直したり、ダミー監視カメラを設置するなどして、何らかの対策を行う必要がある。 ●東海岸地区の一部で、戸別収集を行っているので、不公平である。 →当初は８世帯以上の集積場所であったが、引越し等で世帯数が減り、結果的に１世帯になってしまっている集積場所はある。戸別収集を実施した場合、収集車や人件費が、どの程度上がるか試算中である。逗子市と鎌倉市は戸別収集を実施すると、赤字になることから、戸別収集を見送っている状況である。 ●資料１のごみが減るデータの裏づけは何か。 →人口減少や、資源物の品目拡大により、ごみが減ると見込まれている。このデータは、今まで通りの収集方法を行った場合のデータであり、家庭ごみ有料化や戸別収集を、行っていないことを前提としたデータである。 ●家庭ごみ有料化や、分別により、ごみを減らす必要がある。コンポストを使用すれば生ごみが減るので、コンポスト等をもっと啓発して欲しい。戸別収集は、費用がかかるので反対である。

	●集合住宅の場合も、戸別収集されるのか、カラス対策はどうなる予定か。 →集合住宅の場合は、ステーション方式の収集方法を採用している自治体が多い状況である。カラス対策は、各世帯で、対策を行っている自治体が多い状況である。藤沢市では、ポリバケツに入れて、自宅前に、ごみを出している世帯が多い。 ●最終処分場の使用期限が切れた後は、市内に新たな最終処分場を作れないのか。 →市の土地状況を鑑みた結果、新しく最終処分場を作ることは、不可能であると考えている。使用期限が切れた後は、灰を市外で処理するか、全量を再資源化することを検討中である。 ●戸別収集実施に反対の方の理由を聞きたい。 →反対の理由として、「地域のコミュニティが無くなる」「プライバシーが漏洩してしまう」等の理由がある。 ●資源物の持ち去りがあり、不愉快である。 →資源物の収集は、条例違反である。頻発しているようであれば、資源循環課に連絡をお願いしたい。資源循環課でパトロールを実施したり、指導が可能である。しかし、不燃物の持ち去りは、条例に規定がない状況である。 ●市は家庭ごみ有料化を進めたいのか。 →市民の皆様のご意見を受けながら、検討中である。 以上